

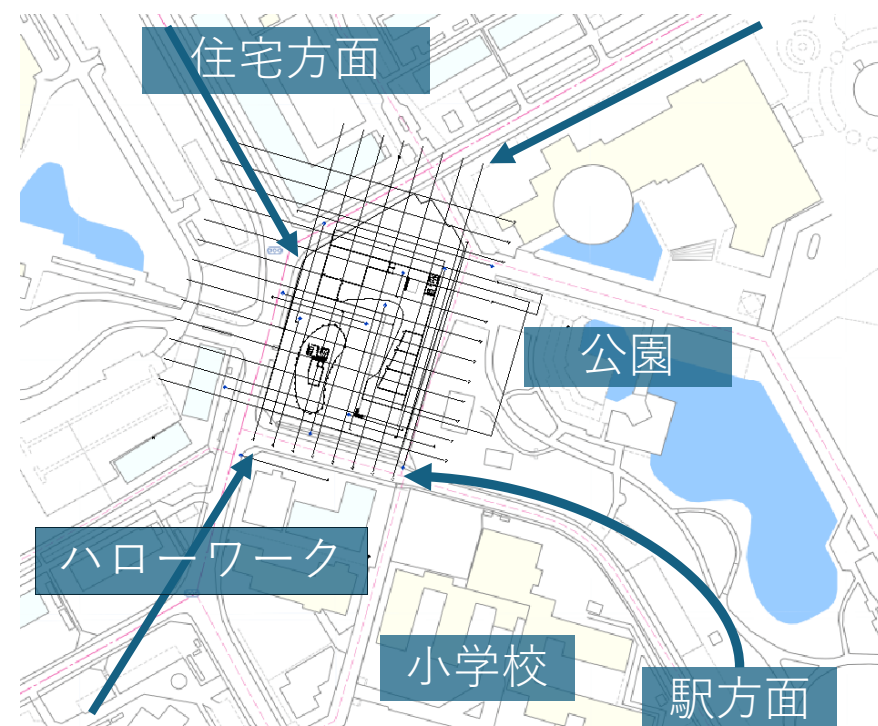
人々と集うイノベーションセンターの提案 -筑波技術大学第二キャンパスの構想にあたって-



設計コンセプト

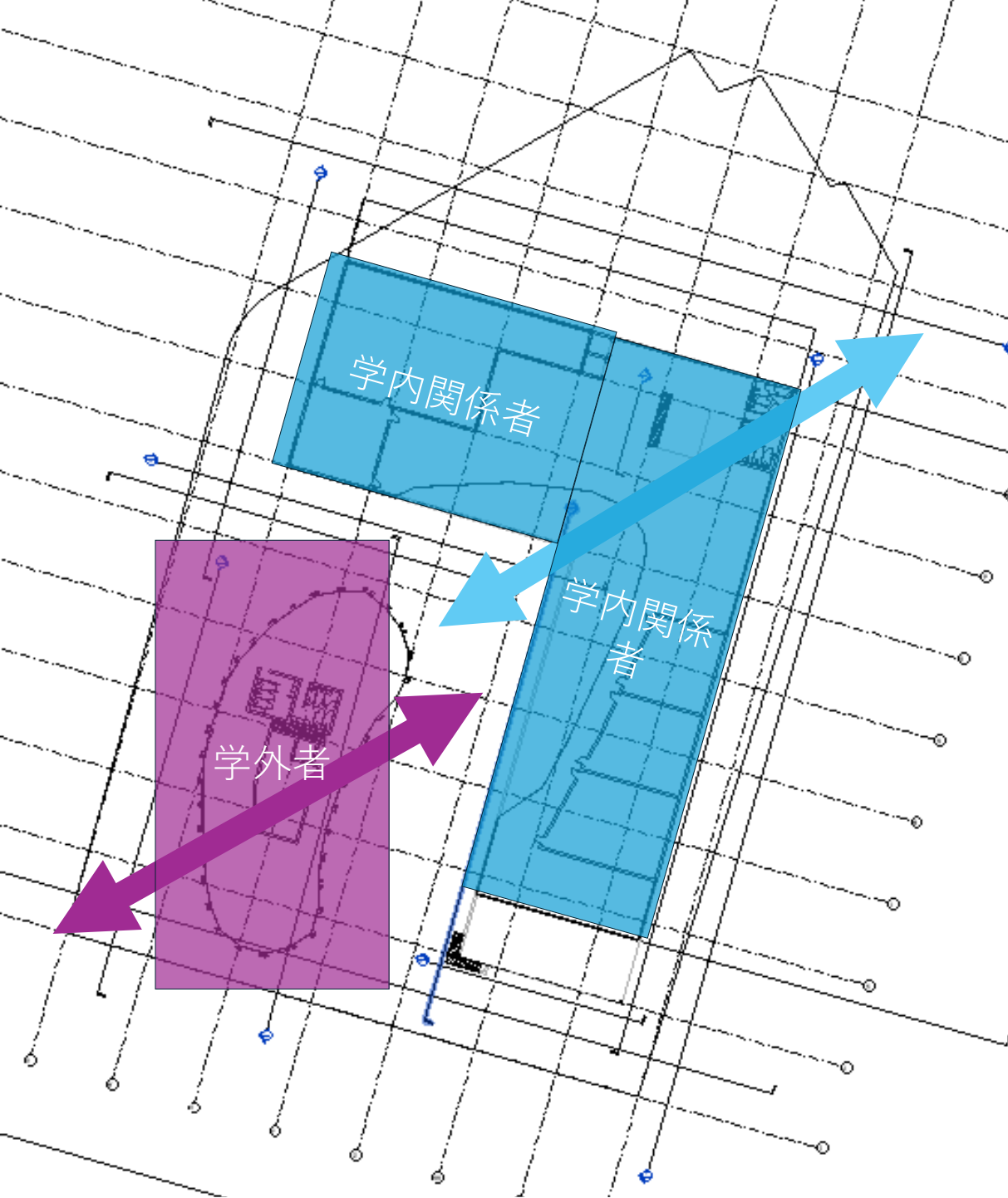
筑波技術大学の第二キャンパスを作成するにあたって考慮したコンセプトは「技術革新」である。技術革新を発生させるためには大学で学問を学ぶ者の視点と他人との交流及び実際にそれを使用する者の視点の交流にあるのではないかと考えた。また計画を行うにあたって筑波技術大学特有の聴覚障害学生が多く在籍するため視点が単一になりやすいのではないかと課題を懸念した。

そこで、第二キャンパスを構想するにあたってより多くの人を呼び込み、かつデフスペースに考慮した形を提案することを考えた。



敷地調査

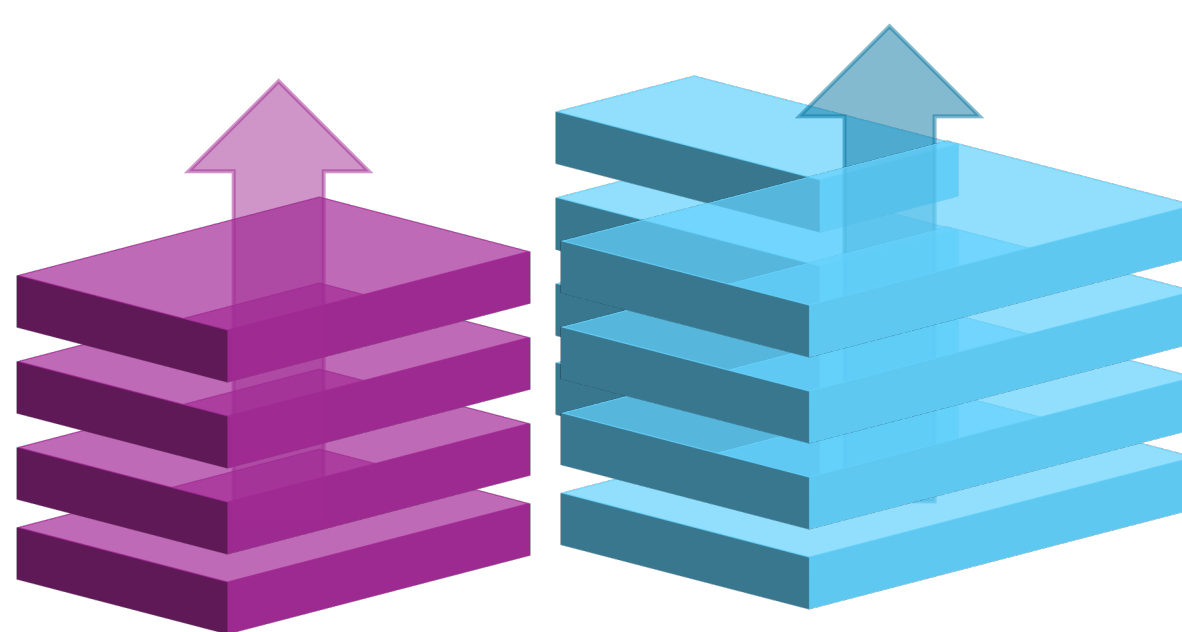
立地条件として北側に住宅街、南東に駅が立地する条件となっており、特に誘致が必要ない好立地。また地域に根差した人間が生活をおこない適度に外部の人間が流入してくる土地だと判断。



※水色 学内関係者
紫色 学外者

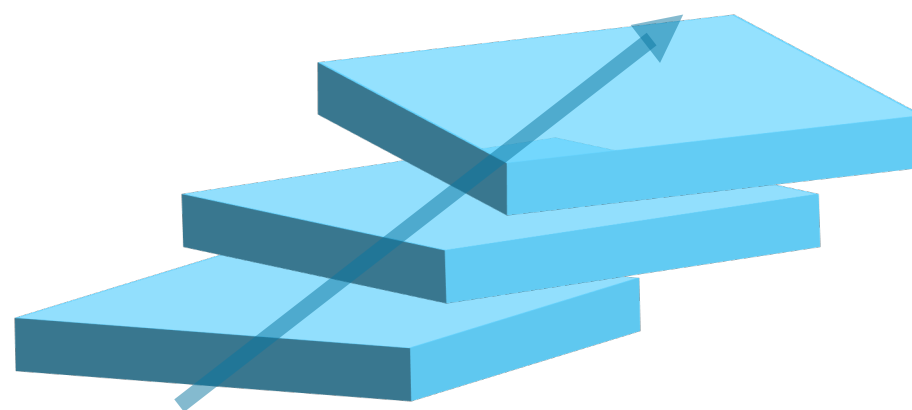
区画分けについて

学外者にも積極的な利用を促しつつも学内関係者の部分と混同を許すと防犯上好ましくないと判断した。よって、紫の部分を公開部分とし青色部分を閉鎖部分とし、学内関係者と学外者の棲み分けを建物レベルで実行した。



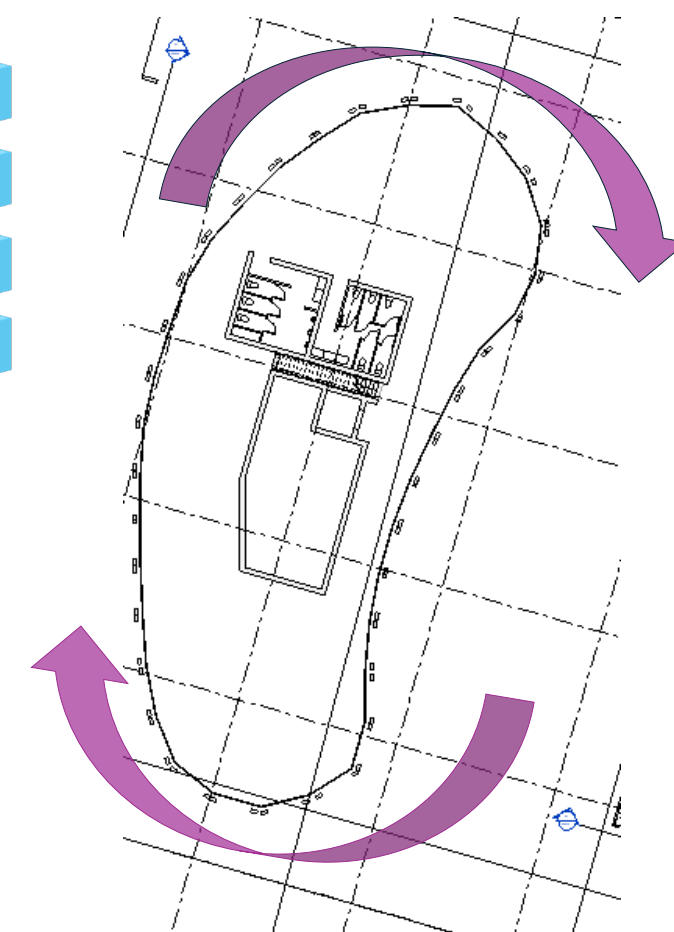
各階のイメージについて

上に行けば行く波戸外部の目が届きにくい形になっており、場合に分けて使い分けが可能になるようにした。

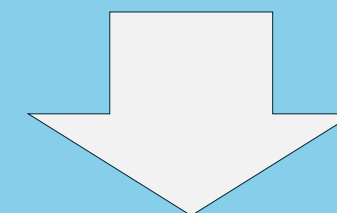


吹き抜けについて

本館内にある吹き抜けだがあえてずらすことによってデフスペースデザインである「感覚範囲」と「色と光」つまり感覚的な空間の広がりにより身近に感じさせることができるのではないかと考えた。

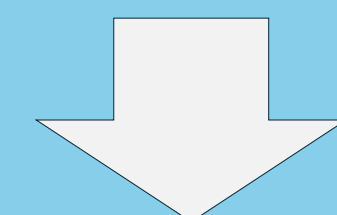


歩行時の建物が見せる
移り変わり



シーケンスを意識

大学は閉鎖的



入りやすいイメージを意識